

ホクコーイモチエーススタークル1キログラム粒剤

■種類名：ジノテフラン・メトミノストロピン粒剤
 ■有効成分：ジノテフラン-----5.0%
 メトミノストロピン-----10.0%

■登録番号：第22072号
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指すという通称)
 ■登録初年：2007.12.12
 ■性状：類白色細粒
 ■有効年限：5年
 ■包装：1kg×12袋、10kg×1袋

【特長】

- いもち病防除剤のイモチエースと殺虫剤スタークルの混合水面施用剤。
- 両有効成分ともすぐれた浸透移行性を有し、病害虫に対して安定した効果を発揮する。
- 10アール1kg施用なので省力的。
- 無人ヘリ散布で使用できる。

【適用内容】(2015年10月末日現在)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数	メトミノストロピンを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 紋枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) ツマグロヨコバイ ウンカ類 カメムシ類	1kg/10a	収穫35日前まで	1回	無人ヘリコプターによる散布 散布	4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	1回

【効果・薬害等の注意】

- 散布に当たっては、湛水状態(水深3cm程度)で重複をさけ均一に散布し、散布後少なくとも4～5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水及びかけ流しをしないこと。
- 本剤を無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
 - ◆ 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整し、飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から5m離れた位置から圃場内に散布すること。
 - ◆ 周辺の作物に対して薬害を生じるおそれがあるので、付近にある場合はかからないように注意すること。
 - ◆ 散布薬剤の飛散によって他の動植物等へ影響を与えないよう散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
 - ◆ 薬剤が水源池、飲料用水、養殖池、養魚田などに飛散、流入しないように十分注意すること。
 - ◆ 使用後の空袋は圃場などには放置せず、安全な場所に処理すること。
 - ◆ 使用後の機体散布装置は十分洗浄し、タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
 - ◆ 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に責任者を決めて保管すること。
- 本剤の使用により、稲の葉に褐点を生じる場合があるので、所定の使用量を厳守すること。
- 急激な温度上昇がおこる気象条件下では、葉に褐変を生じやすいので、フェーン現象等が予想される場合には使用しないこと。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ◆ ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
 - ◆ 関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- 本剤を散布した水田の田面水を他作物の灌水に用いないこと。
- 穂いもちの防除を目的とする場合、その散布時期は出穂10～20日前が望ましい。
- 散布に使用した器具及び容器の洗浄水は河川等に流さず、容器、空袋は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
無人ヘリコプターによる散布で使用する場合は、河川、養殖池等に飛散しないよう特に注意すること。
- ❖ 保管：直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。